

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム菜の花しのろ館Ⅱ	評価実施年月日	平成20年10月30日
評価実施構成員氏名	長谷川 静 ・ 梶田 ふじ恵 ・ 片山 由美子 ・ 林 玉恵 ・ 坪田 和純 ・ 高橋 こう子 ・ 佐々木 美幸		
記録者氏名	長谷川 静	記録年月日	平成20年11月10日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>独自のケア理念、ホーム理念の中に地域とのふれあいや地域の中でその人らしく生活ができるように理念をかかげている。</p>	○	<p>理念はホームの目につく所に掲示しており、理念を利用者様やご家族様、地域の方に伝える機会をもつようになっている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>理念に基づいたケアをすぐに確認できるように名札の裏に携帯している。</p>	○	<p>理念に基づいたケアを提供できるように、朝のミーティング時に理念を再確認している。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議や家族会、おたよりなどで地域で暮らす大切さや、地域との連携の大切さを説明している。</p>	○	<p>地域に支えていただくだけではなく、地域に溶け込み連携し支えあえるように運営推進会議で伝えたり、町内会の総会に参加し伝えている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>行事に参加していただいたり、散歩の時などは挨拶を交わしたり、話したりしている。</p>	○	<p>近隣の方と顔なじみになってきており、気軽に話しかけてくださる。近隣の方が漬物を持参してくれたりすることもあり、以前よりも立ち寄りやすいホームになってきている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会の女性部の皆さんと地域のお祭りに参加して、フリーマーケットを出店し地域の皆様と交流を持ったり、町内の総会や行事、廃品回収などにも積極的に参加している。</p>	○	<p>地域の児童会館の30周年記念のイベントを協力して行い、地域活動に積極的に参加するように取り組んでいる。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域の皆様に介護の悩みや相談に対応させていただいていることを行事に参加した時や運営推進会議の中、町内会の総会に出席した時にお伝えしている。</p>	○	<p>行事参加時に相談されたり、直接ホームへ相談にこられたりと少しずつではあるが、地域に貢献できるように取り組んでおり、今後もさらに取り組みをしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員全員が各自で評価をし、その後全員で検討して自己評価に取り組んでいる。外部評価を受けて、改善すべき点を常に確認し改善、実施に努めている。</p>	○	外部評価を重ねてきて、外部評価での意義が運営者、管理者、職員がさらに理解できるようになり、改善や実施への取り組みが強化されている。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議を定期的に行い、新しい構成員を迎え入れ多方面からの、意見や話し合いを持ちサービスの向上に努めている。</p>	○	運営推進会議の中での意見や話し合いで、地域との連携が多くなっている。災害時の緊急連絡網ができていたり、利用者様の離設があった時の協力体制も検討しており、意見や話し合いがサービスの向上につながっている。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市の担当者との関わりを持つ機会は少ないが、管理者会議や管理者連絡会の時に市の担当者から業務連絡を受け、全職員が周知できるようにしている。</p>	○	市の担当者からの連絡事項は確実に職員に周知させて、サービスの向上に取り組んでいる。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>社内研修や外部の研修で地域権利擁護事業や成年後見制度について学んでいるが、活用できるように支援するには至っていない。</p>	○	今後も学ぶ機会を持ち、必要な時に的確な支援ができるようにしたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>研修などで学ぶ機会を持ち、虐待についてしっかりと認識して、虐待のない介護を実践している。</p>	○	虐待を再認識できるように、定期的に学ぶ機会をもっていく。身体的、精神的な虐待が見られないか常に観察をしている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時に担当者より、十分な理解を得られるようにしており、しっかりと納得していたという事で、契約している。</p>	○	ご家族様の不安、疑問があればいつでも対応し、不安や疑問を解消できるように取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様からの意見、不満、苦情はしっかりと受け止め話し合い、早期に対応して改善している。また、うまく伝えられない利用者様には、日々の様子や行動・言動から察知して対応に努めている。	○	苦情のあった時はすぐに対応しており、改善している。苦情の内容や対応、改善された経過などを苦情処理ノートに残し、職員が把握できるようにしている。直接苦情を伝えづらい方のために、外部の苦情処理窓口の連絡先をホームの入口に掲示している。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族様の来所時に日々のご様子などを直接お話している。状況により、直接お電話でお話して、報告している。金銭管理については、個人の出納簿で出入金の内容を定期的にご家族様に郵送している。	○	来所の機会が少ないご家族様には、ホームのおたよりのほか、毎月お手紙にてご本人様のご様子をお伝えしている。ご家族様に了解をいただいている方には、ファックスにて報告をさせていただいている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来所時にできるだけお話しを管理者、職員が積極的に行って意見や不満、苦情を話せるように機会を作っている。直接話しにくい場合のために、意見箱を設置したり、ホームの入口に外部の苦情処理窓口連絡先を掲示している。	○	家族会や運営推進会議の時など意見を聞く機会を設けている。外部の苦情処理窓口がある事を家族様にも伝えており、わかりやすく掲示してある。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者会議・ユニット会議・リーダー会議の中で職員の意見や提案を聞く機会が設けられている。また、直接意見や提案を聞き入れてくれる、相談役的な上司がいる。	○	意見や提案を出しやすい雰囲気づくり、場面づくりに取り組み、意見や提案が出た時は早急に対応や改善ができるように取り組んでいる。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	要望に柔軟に対応できるように努めており、勤務の調整はできている。	○	利用者様の身体状況にも変化が多く見られ、医療面での援助が多くなっており、人員の確保や対応に取り組み、ご家族様の理解や協力もいただいて改善されている。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者様にダメージを与えるような異動や離職などはない。	○	新人職員は利用者様一人ひとりに紹介している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>新人研修・管理者研修・リーダー研修・スタッフ研修など社内の研修は充実して行われており、職員の要望で研修内容を行ったりしている。また、外部の研修には積極的に参加できるように運営者は取り組んでいる。</p>	○	職員の要望にも対応して社内研修を実施しており、実践で役立てることができている。研修の参加者はユニット会議の中で伝達講習し、研修で得たものを職員で共有できるようにしている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>地域の同業者との現状や悩みなどを話す機会を持つことができている。</p>	○	地域の同業者との交流の機会は少なく、更に交流や意見交換を行っていくように取り組みをしていく。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>休憩時間をゆっくり取り気分の転換ができるように、スタッフルームがあり、ソファも設備してある。職員間で日々意見の交流を持てるようにしている。</p>	○	ストレスが蓄積しないように、日々管理者、職員で話し合いの交流を持つようになっている。解決策が見いだせない時などは、介護部長が相談役になってくれている。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>職員個々の努力や実績、勤務状況は把握しており、向上心につながるように努めている。時給など資格や努力、実績に応じて昇給や昇格などがある。</p>	○	個人の努力や実績を考慮して、昇給・昇格があり、実績により、更にスキルアップできるように研修の参加や資格取得も積極的に行っており、向上心を持って働ける環境である。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご家族様とご本人様にホームを見学していただいたり、状況により住居や病院をほうもんして意向や悩み、不安などを受け止め話し合いをしている。</p>	○	状況を早期に受け止め、信頼関係を構築して安心して利用していただけるように個人に合わせた対応を心がけている。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居時に家族様の不安や悩みを受け止め、不安や悩みの解消に最善を尽くし、信頼関係を構築し安心して利用していただけるように努めている。</p>	○	ご家族様、ご本人様が安心して利用が開始できるように、話し合いや相談にのり、不安などを解消していただけるように取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様とご家族様の意向や状況を把握して、必要と思える援助を検討して対応できるように努めている。	○	ご本人様やご家族様からの意向や状況の変化があった時は早急に検討し対応をしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者様のペースに合わせて、馴染めるように配慮し、ご家族様と相談し協力をしていただきながら、安心して納得していただけるように対応している。	○	体験入居の実施や、ご家族様と1日体験していただいたり、食事を一緒に食べていただいたり、ホームの雰囲気を見て、体験していただいている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	小さな喜びや楽しみを共有し、悲しい事は慰め、怒りの感情も受け止め対応している。	○	支え合う気持ちを大切にして、人生の先輩として敬う心を常にもちながら対応に努めている。日々、利用者様から料理の味の指導や、作法、編み物などを教えていただける機会がある。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様が来所されたときは、利用者様の様子をお伝えし、よりよい状態でご本人様を支えられるように、ご家族様から情報や提案をいただいたり、ホーム側より提案してご家族様の協力を得ている。	○	ご家族様との外出や利用者様が長年居住していた近隣の方との交流支援を定期的に行えるように、ご家族様にも協力していただき共に支えている関係となっている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族様、ご本人様の意見や状況を把握、ご家族様からも本音でお話しをいただいている、関係を理解しよりよい関係を築けるように努めている。	○	それぞれ家族様も様々な思いを抱えているが、本音でお話しをして下さっており、ご家族様との信頼関係も確立できている。ご家族様と一緒に時間を過ごせるように行事への参加をしていただいている。行事への参加も定着しており楽しみにされている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様が定期的に馴染みの老人会の集まりでの、交流をサポートしていただいている。また、お友達が来所した際はくつろいで過ごせるように職員が配慮している。	○	お正月やお盆などには、ご家族様が可能な限り自宅で過ごす機会を作っていたりするように取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	相性の善し悪しに配慮、お互い支え合えるように職員が調整役となり利用者様同士支え合う場面も多く見られている。また、利用者様同士の関係が悪化しないように、職員がさりげなく橋渡し役となるように努めている。	○	行事の計画などを職員も交えて利用者様と話し合いをすることで、関わり合いの機会を持てるようにし、意見交換することで自然に関係の構築ができるように努めており、意見が合い話が弾み関係の構築がなされている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も相談をご家族様から受けたり、ホーム側からも状況などをご家族様にお聞きして退去後も継続的な関わりが持てるように努めている。	○	長期の入院により、退去された方とご家族様とお互いに連絡を取り合い、相談やお話しをお聞きする機会を続けており、退院後は空きが出たら再入居する予定になっている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中で、暮らし方の意向や希望などを色々な場面を通して把握できるように努めている。意向や希望をうまく伝えられない利用者様には、日常の中での言動からも希望や意向を察知できるように努めている。	○	上手く意向や希望を伝えられない方の意向や希望を少しでも察知できるように日々気づいた事を気づきのシートに記入して意向や希望の把握に取り組んでいる。小さな言動が糸口となることが見られている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活シートや暮らしの情報をきさいいただき、ご本人様やご家族の状況をお聞きしており、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境などを情報から把握して個々の生き方、暮らし方、環境に少しでも近づき安心した生活が送れるように努めている。	○	入居時はできるだけ自宅で使用していた馴染みの物を持参していただけるように、お願いしている。また、生活しているうちに利用者様の会話の中から馴染みの物品などが出た時などは、ご家族様に相談して持ち込んでもらったこともあった。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の過ごし方を大切にしながら、心身状態を動作やサインから把握し、状態に合わせた対応し、状態を把握した中で持っている力や隠れている力を見極め力をうしなわないように努めている。	○	個々の過ごし方やペースを乱さずできる力と、できそうな事をさせていただいており、今後も心身状態に合わせて、その時にできる力を失わないように取り組んでいく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人様、ご家族様から意向や希望をお聞きし、更にアセスメントしてユニット会議の中で介護支援専門員の適切な監理のもとで検討して介護計画を作成している。	○	意向や希望を伝えられない事があるため、生活の中で気づきが見られた時は、小さな事でも気づきのシートに記入してチームで把握することにより、意向や希望の糸口になり介護計画に反映されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	ご本人様がうまく伝えることができない事が多く、気づきのシートを参考にし、センター方式も都度見直しをして現状に即した計画を作成できるように取り組んでいる。
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	飲水量、食事量、排泄状態、バイタルなどの身体状況も記入し活用している。更に気づきのシートも活用して個別ケアの実践と介護計画の見直し時に活用している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	○	看護師が常勤しており、健康相談や医療面での相談ができ、健康チェックもしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	○	消防訓練や救命救急講習を地域の方々も参加していただき実施している。また、地域の教育機関と協力して行事を企画し実施している。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	○	他のサービスを利用するために、利用者様の現状や体調、生活のリズムなど細部にわたり話し合い、利用者様がサービスをより善く利用できるように取り組みをした。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	○	権利擁護の件や要介護度がよう支援1となった時は地域包括支援センターに依頼、相談を行っていきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医については、必ず利用者様、ご家族様の希望で決めている。希望がない場合でも、相談し納得いく医療機関にかかっている。	○	利用者様、ご家族様が医療機関に対しての要望、方針などに希望がある時はご本人様やご家族様が変わりかかりつけ医に伝え適切な医療を受けられるように支援している。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の急激な進行が見られ、認知症専門医師に受診し、相談、治療をしている。	○	医師への相談や日常の変化や状態の変化をお伝えし、医師からも注意すべき点や指示をいただいて、治療を受け進捗が緩やかになっている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤で看護職員がおり、日常的に健康管理に努めている。	○	利用者様、ご家族様とも馴染みの関係になっており、利用者様が直接相談しており、適切な支援がなされている。食事制限も看護職員が説明することで納得していただき、食事療法もスムーズに実施できている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院などがあれば、情報の交換を書面などで行ったり、相談なども行い早期退院に向けて連携している。	○	入院時は定期的にお見舞いに行き、直接状態を確認し、病院とも連携を取っている。入院が長期化しているときは、状態が大きく変化していることが多いため退院後の受け入れ態勢を整えるための、情報を提供していただいたり、ご家族様に了解していただければ、退院時の医師からのお話しにも同席している。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時には説明して、同意書をいただいているが、その都度、状態に合わせてご本人様やご家族様の希望を尊重し、医療サイドとも話し合い、納得の得られる選択ができるように支援している。	○	重度化終末期を利用者様とご家族様の希望を尊重し、医療サイドの協力も得て、納得の得られる選択をし、終末期を迎えられた方や、適切な医療機関で長期の治療をすることになった方もおられ、その都度支援できるように取り組みをしている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者様やご家族様の意向を踏まえながら、できるだけホームで過ごしていただけるよう、チームで支援に取り組んでいる。また、事業所内に介護部長(看護師)がおり、相談しアドバイスを受けている。	○	24時間対応の医療機関を確保しているが、細部にわたり検討し、変化に備えて準備や連絡体制を万全にするように取り組みをする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>アセスメントやケアプラン、生活リズムや支援内容などの情報を提供しこれまでの暮らしが継続されるように連携に努めている。</p>	○	<p>ご主人が利用されている施設に移り住むこととなり、ダメージを最低限にできるように、ケア関係者と直接情報を交換し、現状の生活の様子を見ていただき、生活のリズムが大きく変わらないように取り組みをした。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人記録などの個人情報については厳重に取扱いしている。一定の場所に保管し、重要な物については、鍵付きの書庫に厳重に保管している。</p>	○	<p>誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけがないように、職員同士でもお互いに注意ができるように取り組んでいる。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定ができる方が多いが、自己決定や希望をうまく表現できない方には、個々の理解力に合わせて、できるだけ希望や自己決定ができるように対応している。</p>	○	<p>日常では、衣服や外食時にいくつか選択ができるようにして、自己決定や希望がかなうように、支援している。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ご本人様の希望やペースに合わせてるように努めている。</p>	○	<p>業務を改善し工夫して、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った支援が多くできるように、取り組みを行っている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理美容が月に1回訪問しており、利用者様からの希望により利用されている。利用者様の中には、昔から馴染みのある美容室を、ご家族様にも支援していただきながら、望むお店にいけるように努めている。</p>	○	<p>女性の利用者様は特に身だしなみやおしゃれに敏感であり、外出時は化粧をしたいとの希望が多くきかれるため、お化粧品を用意して介助の必要な方には、お手伝いしている。また、プロの理容師さんにボランティアで来ていただき、メイクや髪の毛のセットをしてもらうなどの取り組みをしている。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>お食事の準備、食事、後片付けは利用者様個々の力を活かしていただき、楽しみながら食事できるように努めている。</p>	○	<p>1か月に1回は外食する機会があり、利用者様と話し合い外食先を決めたり、外出時のお弁当の献立を一緒に考えたり、作ったりと食事の楽しみが多くなるように取り組んでいる。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒や喫煙されてる方はいないが、飲み物やおやつに関しては、好みの物を楽しんでいただけるように努めている。	○	おやつは手作りが好評で、炊飯器を使用したケーキが大好評で、季節の野菜や果物を使用して楽しんでいただけるようにしている。また、1人ひとりの状況に合わせて、飲み物やおやつなどを換え、楽しめるように取り組んでいる。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	根気よく排泄のパターンを把握し、声掛けや誘導をして日中はできるだけ、トイレで気持ちよく排泄していただけるように支援している。	○	排泄表を使用して、排泄のパターンを把握し、個々に合った介助や誘導でおむつの使用がなくなるように取り組む、使用されている方はほとんどいない。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の曜日や時間はだいたい決まっているが、体調や希望に沿っていつでも入浴ができるようにしている。	○	入浴を好まない方には、体調や気分の状態天候なども考慮して、入浴の声掛けのタイミングをみて、入浴日や時間など関係なく入浴できるように取り組んでいる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣や個々の体調、状況に合わせて対応している。	○	安眠や休息ができるように、常に配慮している。室内の温度、湿度、換気、明るさ、音などに配慮し安心して休息できるように取り組んでいる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	長くホームを利用されている方は特に、ご自分の役割を持ち、自信を持ち楽しみながら行っている。常に個々の生活歴や力を活かした役割、楽しみごとが持てるように努めている。	○	沢山の役割を持っていただくのではなく、少しの事を自主的に楽しみながら続けていただけるように取り組んでいる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いとして事業所でお預かりしているが、個々の希望や力によって対応している。	○	お金の管理ができる方には、ご家族様とも話し合い、ご自分で管理されている方もいる。管理が難しい方でもご家族様の協力を得て少額のお金を持っていただき、お買い物時には、商品を自ら選んでいただき、支払をしていただけるように支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個々の希望によって、買い物や散歩、ドライブなど戸外に出かけられるように支援している。	○	利用者様により、外でコーヒーを飲みに行きたい、お昼にうどんを食べて帰りたいなどの希望もかなえられるように取り組みをしている。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月に1回は大きな行事として、外出行事を企画している。行事を企画する前に利用者様と行ってみたい所などを話し合い、希望を取り入れている。	○	ご家族様との外出機会も、利用者様により異なるが、お墓参りや食事、買い物などに出かける機会もあり、お正月はご家族様と過ごされる方もいる。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	制限などではなく、ご自分でご家族様や友人に自由に電話をされている。介助が必要な方には、職員がお手伝い支援している。手紙のやり取りについても支援している。	○	お電話でのやり取りが多いが、お手紙などに関しては、希望があれば代筆している。返信の希望はあまりないが、希望があった時は支援している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問に関しての規制などではなく、いつでも気軽に来ていただいている。居室やリビングでゆったりと過ごしていただいている。	○	ご家族様以外でも、友人、幼馴染の方など、沢山の馴染みの方が訪問されており、訪問時は利用者様に確認して、お茶やコーヒー、お茶菓子などお出しして、くつろげるように配慮している。可能であれば、お食事を一緒に食べていただく事もある。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者・職員は「身体拘束」の研修に積極的に参加し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	○	身体拘束がないように、社内研修や外部研修に参加している。身体拘束のリスクなど、常に話しあう機会を持っている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は開錠されている。	○	センサーを設置しているが、センサーには頼らず、見守りを強化している。職員の出入りについては、常に声を掛け合い出入りを知らせるように徹底しており、日中に関しては、鍵は常に開錠している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	フロアで記録を書きながら、常に所在確認を行い、居室でお過ごしの方については、様子を伺い安全を確保できるように努めている。	○	日中はプライバシーに充分配慮し、ノックをして声掛けを行い訪室している。夜間は定期的に訪室して、安否確認をし、個々の状態により、頻繁に確認したり、覚醒時に転倒の危険が高い方には特に注意をし、安全に配慮している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬や洗剤は鍵付きの保管場所に保管している。日常的に使用する個人の石鹸や歯磨き粉は個々の状態に応じ制限はしていない。	○	できるだけ制限が少なく危険がないように取り組んでいるが、認知症の進行により、義歯洗浄剤を洗浄剤と認識できなくなった方がおり、危険と判断してホーム側でお預かりすることになった。今後も状況に合わせて対応に取り組んでいく。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒防止に歩行の障害になる物の撤去、見守りの強化、毎日の運動をかかさず行い、転倒防止に努めている。窒息については、食事前の嚥下体操、食事は必ず一緒に摂り、2名以上が見守りできる状態で摂取していただいている。誤薬については、氏名、日付、時間帯を声に出し確認している。行方不明については、常にし所在確認をし、ユニット入口の出入りがあれば必ず確認、火災については、定期的に訓練や講習を実施している。	○	事故防止の取り組みはしているが、ヒヤリハット、インシデントは見られており、その都度事故の原因や今後の対応について、検討している。研修や講習に参加、緊急時のマニュアル作成をして、事故が起きてしまった時に適切な対応ができるように取り組みをしている。行方不明などが起きてしまった時に迅速に対応ができるように、個々の特徴や写真などをまとめた資料を作成するように取り組んでいるところ。地域の方も行方不明時は、協力してくださるようになっていく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に救急救命の講習を受けている。新人職員研修やスタッフ研修など本社主催の研修でも緊急時の対応について受講している。	○	緊急時に適切で迅速に対応ができるように、今後も定期的に訓練、講習、研修を行うように取り組んでいく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に消防署の指導のもと、避難訓練を地域の方と行っている。近隣の方には、災害時に利用者様が一時的に避難ができるように、お願いしており、協力をしていただいている。	○	緊急時は地域の方との緊急連絡網があり、協力体制ができていく。地域の方と一緒に避難訓練を行う事で、ホーム内の様子を把握していただき、利用者様の様子などもわかっていただけ、緊急時に少しでもスムーズに対応ができるように取り組んでいる。緊急連絡網を使用した、訓練を行っていき更に緊急時活用できるように取り組んでいく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個々に起こりうるリスクについて、お話ししている。転倒、誤嚥、誤飲などリスクについてお話しすることで、ご家族様に理解していただく事で、相談し最善策を考え、抑圧感のない暮らしを提供できるように努めている。	○	リスクをご家族様に理解していただき、医療関係者とも相談し、時間をかけながら取組をして、抑圧感のない生活を送っている方もいる。

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	健康状態の目安にバイタルの測定、水分、排泄状況のチェックを行い、体調の変化などの目安にしている。その他、日々の観察を行い、変化に気付けるように努めている。	○	小さな変化なども記録に残して、状態を全職員が把握し、迅速な対応ができるように取り組んでいる。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方されている薬については、ケース記録に閉じてあり、いつでも確認ができるようにしている。副作用や用法、用量について必ず確認をし、不明な点があれば、薬剤師や医師に相談している。	○	薬により、副作用を起こす食品なども把握しており、確認できるように台所に確認できる表を貼ってある。新しく薬が処方された時は職員全員が、しっかりと把握するようにしており、変化などが無いのか、しっかりと観察している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘が及ぼす影響について職員はしっかりと把握しており、排便管理は徹底している。また、便秘がちの方には、ヨーグルトや牛乳、繊維が多い食品などを摂取していただき、毎日体操も行い少しでも、便秘が予防できるように努めている。	○	便秘の予防を徹底していても、便秘が解消されない方には、かかりつけ医師に相談して、下剤を使用している方もいるが、体操や補食も継続して行い便秘の解消に取り組んでいる。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアは徹底しており、利用者様にも口腔ケアは定着している、ケアの大切さを利用者様にも伝えて支援している。	○	歯科の検診をしていただき、個々の状態に合わせて歯磨き指導をしていただき、必要な方には職員が助出し、口腔内の清潔保持に努めている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士により、カロリー計算がなされており、バランスのよい献立となっている。また、状態や習慣により、食事のメニュー、量や味の調整、形態を変え対応している。	○	好きなものや嫌いな食べ物、飲み物の情報を活用し、個別性に配慮している。器や食事の量などにも配慮している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルを作成している。徹底した手洗い、うがいを行っており、習慣となっている。手すりの消毒の徹底や来訪者様の手洗いうがいも徹底していただいている。	○	下痢や嘔吐物処理マニュアルがあり、処理セットも用意している。インフルエンザの予防に関しては、利用者様とご家族様の同意を得て、予防接種を行っている。職員についても、一部事業所が負担をしてくれ、職員も予防接種を行い感染予防対策を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、調理器具の消毒は徹底しており、食材は新鮮なものが届られ、食材の調理などの扱ひも火を通さない食材に関しては、使い捨てグローブを使用、解凍が必要な食材についても、冷蔵庫内での解凍かレンジを使用しての解凍を徹底して管理して食中毒などがないように努めている。	○	食中毒やウイルスが他の施設などで発生した情報が出た時などは、衛生管理を更に強化して、毎回食器を煮沸消毒し徹底している。また、定期的に栄養士が台所の衛生状態や保存のきく食材、調味料なども定期的に管理している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りやホームの周りには、花壇があり、近隣の方や大家さんが季節の花を植えて下さり、明るい印象である。また、ベンチを用意して皆さんが気軽に休んでいただけるように設置してある。駐車スペースも多くあり、車での来所も気軽にできるように配慮している。	○	玄関先のスロープ、手すり、もあり安全面にも配慮しており、子供110番にも登録しており、玄関先にステッカーが貼られており、安心して入りやすい雰囲気となっている。お花などが沢山植えられており、近隣の方が来所され、写真をとるなどされる事や、近隣の子供達が遊びに来ることもある。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間には季節の花を飾ったり、トイレなどには観葉植物を置いたり居心地の良い空間づくりに努めており、利用者様にとって、不快な音や光がある時は早急に対処、音の調整や光の調整のため職員が手作りのカフェカーテンを使用して調整したりと工夫している。	○	対面キッチンになっており、調理の音や匂いを感じることができる。キッチンへの出入りは自由になっており、調理、味見、片付けが一緒にできる。可能な方は自分でお茶などを入れるなど、家庭的な雰囲気である。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用の空間では、食卓やソファでお話しされたり、テレビを観たり、ソファで横になりながらテレビをみたり、手芸や編み物をされている。また、居室ですごされたり、居室で気の合う方とお話しされたりと自由に過ごされている。	○	くつろげる空間を提供できるように、利用者様の意見や希望をお聞きして本棚を用意し、読書ができるように取り組みをした。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物を入居時にお願ひして持ち込んでいただいている。好みの装飾品を持ちこんで、居室をご自分なりに飾り、心地よい空間づくりをされている。	○	ご家族様も見なれた馴染みの物があり、来所時ゆったりとすごされており、お昼寝をしたり、お茶やお菓子を召し上がり談笑されており、職員は空間の維持ができるように取り組んでいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日換気は短時間でも行っており、温度の調整や湿度の状態など状況に合わせてこまめに行っている。	○	乾燥の時期には特に湿度の維持ができるように、共用部分に加湿器を使用したり、洗濯物で調整し工夫している。利用者様の居室には濡れタオルを干したり、こまめに室温の調整や寝具の調整も行っている。個々の状況により、居室内に加湿器を設置している方もおられる。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりやバリアフリー、階段の他にエレベーターが設置されているため、個々の身体状況に合わせて、自立の支援ができるようになっている。	○	利用者様の身体状況に合わせて、手すりを増やしたり、浴槽内にイスを設置など、安全で自立した生活ができるように、その都度、環境づくりに取り組んでいる。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々にわからない事や、わからなくなった事を把握し、早期に対策を職員で検討し、対応している。対応により、わからなかった事がわかるように改善できるように工夫している。	○	混乱や失敗を防げるように、居室やトイレがわかるように、ネームプレートや張り紙をし、混乱や失敗を防げるように対応している。また、誘導や見守りを根気よく行い、混乱や失敗が改善された方もおられる。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑や庭には季節の花や野菜が植えられ、観て楽しんだり、収穫を楽しまれたりできるように取り組み、ベランダではプランターに花を植え、水やりをしてお花の成長を楽しめるようにしている。	○	裏庭の畑や建物の周囲の花畑は、近隣の方も自由に入り、お花と一緒に植え、野菜の収穫も一緒に行い、楽しんでいる。外にはベンチも設置しており活用されている。



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>◎②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>◎③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>◎①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>◎①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>◎①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>◎①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・身体機能の低下を予防するために、毎日かかさず運動を行っており、大きく下肢低下をされている方は見られていない。入居前に車椅子を使用していた方が運動を続け、手引き歩行が可能の方や自力で歩行が可能になった方もいる。
- ・地域との関わりが増えており、町内会の女性部の皆さんとフリーマーケットを行ったり、地域の子供達との交流、中学生との交流など地域との関わりを今後も大切に、地域の中で支え合いながら利用者様を支援していきたい。
- ・毎月の行事は、できるだけ利用者様が楽しんでいただけるように、利用者様と一緒に話し合いをしてできるだけ希望がかなうようにしている。 ・毎月、ご家族様に個別のお手紙を送り、個々の日常の様子をお伝えしている。